



(社)日本建築美術工芸協会 20周年記念誌

1988-2008

(社)日本建築美術工芸協会
20周年記念誌

CONTENTS

QAQA 20周年を迎えて

QAQA 会長 中島昌信 1

QAQA 副会長 岡本 賢 加藤 貞雄 澄川 喜一... 2

QAQA 20周年に寄せて 3

(社)日本建築学会会長 斎藤 公男

芦原 初子

内井 乃生

QAQA 20周年の歩み 4

アピアランス

個人会員 11

法人会員 23

QAQA あの日あの時 24

記念事業参加 個人会員・法人会員ご芳名 35

記念事業参加 一般・法人・団体ご芳名 36



ごあいさつ

設立20周年を迎え心からお慶び申し上げます。顧みると、当協会の前身である、任意団体日本建築美術工業協会は、40年前の1968年建築家と美術家の交流からはじまり、新しい建築のなかに美術・工芸・造園などの造形作品を取り入れ、人間性豊かな環境づくりをするために、翌1969年に設立し、以後我が国文化の向上、発展に寄与する各種事業を実行してまいりましたが、1988年4月21日「日本建築美術工芸協会」と名称を変更し、同年11月28日に文化庁所管の社団法人として設立許可を得ました。

定款の目的には、この法人は、建築家、美術家、工芸家その他の人々の連携と協力により、建築に係る芸術的環境の創造と保存を図り、もって我が国文化の向上発展に寄与することを目的とする。と明示されております。

以来当協会は伝統を引き継ぎ、様々な事業を行って参りました。只今は各委員会を中心に会員の協力のもと、20周年の記念事業を企画し、変化の激しい時にも拘わらず着々と成果をあげて参りました。今回の実績を考えますと、一般に難しいと言われる、異業種で構成されている会員にも拘わらず、それぞれの個性ある見解を纏める、その力と充実感を感じました。

設立20周年を機会に益々伝統を継承した魅力ある協会に発展することを確信すると共に、会員はじめ関係者の更なるご理解ご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

QACA会長 中島 昌信



■aaca副会長 岡本 賢 (株)久米設計 代表取締役会長
aaca 20周年記念事業委員長/AACA賞選考副委員長

aacaの20周年記念をお喜び申し上げます。この団体は人々の生活環境を構成する空間芸術を総合的に捉え、文化として強く情報発信しつづけて他にない優れたユニークな活動を展開してきました。セミナー企画やフォーラム企画は様々な分野の最先端で活躍する方々を招いて最もホットな情報を発信しつづけています。

もう一つの柱であるAACA賞、芦原義信賞は毎年多くの建築作品、芸術作品の中から厳正に選ばれた数作品を現地審査を経て各賞が選考されています。いずれも文化の香り高い作品で社会に多くの影響を与えてきました。今年も多くの記念事業が企画され会員の皆様の熱心な活動によって各々素晴らしい成果を挙げています。20周年をマイルストーンとして多くの会員の参加を頂いて、aacaが発展しつづける事を祈念致します。



■aaca副会長 加藤 貞雄 美術評論家
AACA賞選考副委員長

建築だけでなく美術・工芸も対等に広い視野で結集したaacaは、他に例を見ない組織であり、景観シンポジウム・AACA賞をはじめ種々の有意義な事業を展開してきました。

既刊された記念誌に記された足跡を振り返ると、aacaならではの成果が見られます。しかし、芦原義信会長のもと、この協会がスタートした頃と今日とは全く環境が変わっています。不況のあおりで会員数が減少し、会費収入に頼っている協会の内実は火の車で組織としての実態は固まっていません。広く芸術的環境のあり方に一石を投じて成人に達したaacaは、それでも各種の委員会が活発に活動し、分野を超えた交流が進んでいます。その努力が協会を支えています。このエネルギーが明日につながると信じます。



■aaca副会長 澄川 喜一 彫刻家
aaca 20周年記念シンポジウム実行委員長/AACA賞選考委員長

石見銀山(島根)は、大航海時代に大量の銀を産出した鉱山で世界から注目され、1923年休山まで長い歴史を刻み続け、自然と共生した日本の誇るべき稀有な鉱山遺跡です。

世界遺産に登録され、改めて注目を集めていますが、単なる観光地ではなく、本当の文化遺産の町として次世代に受継ぐにはどうしたら良いか、まちづくりを如何にすべきか、現地の皆さんを特別にお招きしお話を聞く会を催しました。自然と暮らす大切な知恵を学び、「まちづくり」の原点を学びました。

多くの方々のご協力に感謝申し上げます。



■(社)日本建築学会 会長 齋藤 公男

社団法人日本建築美術工芸協会が創立20周年を迎えられましたことに対し、心からお祝い申し上げます。これまでaacaの活動を支えてこられました歴代の会長、役員、会員のみなさまのご努力に対し深い敬意を表します。

「建築家、美術家、工芸家その他の人びととの連携と協力により豊かな芸術的環境の創造と保存を図り、これを通じて日本文化の向上、発展に寄与すること」という理念のもとにaacaは幅広い活動を続けられていますが、私ども日本建築学会の会員にとってとりわけ馴染みのある活動は、年に2、3回建築会館のギャラリー・中庭を使って開催されるaacaの展覧会です。第一線の建築家・美術家・工芸家の作品がジャンルを超えて展示され、期間中に建築会館を訪れる人びとに安らぎと潤いを与えていただいています。建築会館のギャラリー・中庭の使い方としてもっともふさわしいイベントであると感謝いたしております。

わが国の建築や都市環境を世界に誇れるものにするためには、aacaの理念にあるように、建築、美術、工芸、その他多くのデザイン分野が協力しあわなければなりません。aacaのますますの発展と飛躍を期待するゆえんです。

最後に、今後とも私ども日本建築学会との連携と交流をお願い申し上げてご挨拶いたします。



■芦原 初子

この度は設立20周年、心よりお祝い申し上げます。15周年の際には、芦原は退院して三ヶ月、小康を得て総会に出席し、会長の役目を果たすことができ、とても喜んでおりました。今思い返すと、設立の前年に、宇津野和俊さん、退会された大同元さん、今は亡き遠山景行さん方々が軽井沢にゴルフにいらして、家にお泊りになったことがありました。ゴルフは兎も角、その時にaaaja（建築美術工業協会）をaacaにする相談をなさっていたようでした。翌年皆様の絶大な御協力を得て、aacaが発足し、社団法人日本建築美術工芸協会の認可も下りて、芦原は長年の念願が叶い、大変張りきっておりました。aacaはすべてに最優先で、日程が重なればどんな会合、行事でも迷うことなく断っておりました。aacaの発展は芦原にとって晩年の大事業だったのです。八十五才で亡くなる直前まで仕事をしていて、老後がなかったのも、毎年の景観シンポジウムは私共二人にとって楽しい国内旅行でした。最後となった函館は、芦原の大好きな町で、良い思い出となっております。会長はじめ会員皆様のお力によって、aacaが増々発展することを願っております。

(芦原義信氏夫人)



■内井 乃生

1985年から88年にかけて、私共の事務所では、豪邸の設計依頼が多くなった。戦後の機能中心の合理化住宅から、プレハブの量産住宅へと発展し、本格的な大邸宅では豊かさを求めて美術工芸への関心が高まってきた時であった。この頃、昭蔵は新日本建築家協会の副会長であったが、美術工業協会の遠山理事より建築家が母体となって環境の芸術空間を目指す会に脱皮したいので、そのまとめ役を引き受けて欲しいと懇請され当惑していた。そこで建築学会会長の任期を終了されたばかりの芦原義信先生に会長をお願いし、昭蔵は家協会の任期が終了した1991年より副会長として協力することをお約束した。その後12年間、京都での大学生活と東京の事務所を両立させながら週に2～3回は新幹線で往復する日々を送った。その間毎年各地の都市で開催したaacaシンポジウムの企画と運営には腐心し、私にもたびたび意見を求めた。

昭蔵は他の人々の意見や能力を大切に評価し、それぞれに活用することが上手な人であった。天国へ去って早6年、昭蔵のこのやさしい心を感じ、受け取った人々からはお礼と感謝のことばを頂く日々が続いている。aacaもやさしい心と感謝の満ち溢れた会であって欲しいと願っています。

(内井 昭蔵氏夫人)

oaca

1988 ▶ 2008

20年の歩み



oaca 設立20周年記念の節目にあたり、20年の歩みを既刊広報誌・ポスターなどから「景観シンポジウム」「AACCA賞」を中心に思い出の出来事を抜き出しました。今までの足跡をふり返り明日のoaca を考える良い機会としたいと思います。

1988 (昭和63年)

「社団法人 日本建築美術工芸協会」設立

- 1968年新しい建築のなかに美術・工芸・造園などの造形作品を取り入れ、人間性豊かな環境造りのため、建築・美術・工芸に関する方々の相互交流を目的として建築家佐藤武夫氏、芦原義信氏を中心に任意団体を設立。
- 1988年4月「日本建築美術工芸協会」に名称を変更。
同年11月より広い分野の方々との交流を深めると共に一層の飛躍を目指し文化庁所管の「社団法人日本建築美術工芸協会」の設立許可を得る。

初代会長に芦原義信氏



シンボルマーク

1989 (平成元年)

- 10月oaca会報第1号創刊
- 第1回'89京都シンポジウム開催 テーマ:「都市文化と建築美術工芸の関わり」
11月京都市国際交流会館のイベントホールでoacaの記念すべき第1回シンポジウムが開かれた。国際文化都市御自慢の新築会館ホールを埋め尽くし、立ち見客まで出るほどの盛況の会となった。
- 東京サレジオ学園 設計監理 坂倉建築研究所(代表 阪田誠造)が、村野(藤吾)賞、吉田(五十八)賞を受賞。
「近代建築の正統派として建築家・彫刻家・家具設計家・ガラス工芸家・テキスタイルデザイナー等が協力して構成した素晴らしい空間、これこそが建築美術工芸協会の誇りとすべき建築であると信ずる次第なのです」 - 芦原 義信

事務所を現在の場所へ移転

oacaの事務所が現在の東京都港区芝5丁目26番20号 建築会館 6階へ移転



創刊号表紙

1990(平成2年)

- ・第1回メタルワークストリートアート デザインコンテストの開催
最優秀賞 「POND-SKATER」
279点作品が寄せられ、第1次から第5次選考を経て入選順位を決定。他の素材ではなかなか表現できない、メタルの特性を生かした優秀なデザインが上位入賞。
- ・aaca会報「時代の華一輪」スタート。



1991(平成3年)

- ・'91茨城・水戸シンポジウム開催 テーマ：「地域における環境・街なみ」
一ポスト 水戸市制百年一 4月水戸市常陽藝文ホールにて開催。
- ・第1回 (社)日本建築美術工芸協会賞 (AACAA賞)
「東京都多摩動物公園昆虫生態園昆虫ホール」
建築家・美術家・工芸家その他の人々の連携と協力によって優れた芸術的環境を創造し業績のあったものを表彰。
- ・東京芸術劇場及び池袋西口公園の計画 (設計 芦原建築設計事務所)
29人の芸術家の協力による41点の作品が設置されている。
それらは建築設計の一環として、設置箇所や仕様、予算などが予め組み込まれ工事の進捗に合わせて、設計者側の起案に基づき作家選定の委員会の承認を得て選出された作家たちの作品。



No.06表紙 (芸術劇場)

1992(平成4年)

- ・'92静岡シンポジウム開催 テーマ：「日本の都市景観と富士山」
5月静岡ターミナルホテルでシンポジウムが開かれた。富士山という私たちにとって最も象徴的かつ具体的な美はパネラーの方々の専門的な論旨を誰にもかりやすく共有させるかなめであった。
- ・第2回 AACAA賞 「能登島カルチャーパーク」
一つの快い夢を与える脈動を持ち、また環境との響き合いもいい。一嘉門 安雄
- ・第2回 AACAA賞 「北御牧村芸術むら公園結いの高欄道」



シンポジウム風景

1993(平成5年)

- ・'93石川・金沢シンポジウム テーマ：「景観と文化」
5月石川県金沢市文化ホールにて開催。金沢は、加賀400年の歴史と伝統のもとで個性あふれる美術や伝統工芸を生み出し、発展させてきました。金沢市は、城下町として変化に富んだ地形や線を生かし、多くの歴史的建造物や町並みも保存され、それらが近代建築と調和を保ち美しい景観を形成し今日に至っております。
- ・第3回 AACAA賞
「鹿児島市みなと大通り公園モニュメント並びに一連の彫刻作品」
曲線を使った柔らかく滑らかなディテールはパブリックアートとしての大切な条件の一つで近づきやすさをつくり出している。
- ・第3回 AACAA賞 「Villa CypressII」
この住宅は家を持つ人達にこれからの新しいライフスタイルの方向を示唆している。
- ・対談「現代都市と工芸」大久保 婦久子、柳澤 孝彦
大久保先生のどんな質問も寛容に受け入れる先生の語り口は実に優しく暖かいものであったが、笑みをたたえた二つの瞳の底には宇宙の果てと現在とを結ぶ壮大なロマンを見据える強い光が輝いているようであった。-柳澤 孝彦



対談■柳澤 孝彦/大久保婦久子

1994(平成6年)

・'94滋賀・彦根シンポジウム テーマ：「水と景観」

5月日本最大の湖である琵琶湖とそれを取り巻く緑深い山々などの美しい自然と豊かな歴史に恵まれた滋賀・彦根の地においてシンポジウムが、彦根市民会館ホールにて700人を超える参加者を集め盛會に開催された。

・第4回 AACAA賞 門真市南部市民センター森林浴体験室「森遊回廊」

この作品は我々に色々と想像をする楽しさを与えてくれる今までにないタイプの魅力ある作品である。

・10月ジョン・モンデール氏(アメリカ駐日大使夫人)「公共芸術と環境」のテーマで特別講演会を建築会館1階ホールにて開催。

モンデール女史は公共芸術について深い知識を持ってパブリックアートに対する講演を各地で開催活躍する。



モンデール女史

1995(平成7年)

・'95新潟シンポジウム テーマ：「海と景観」

6月遠山文化庁長官をお迎えし、新潟市内のグランドホテルで建築家や陶芸家・デザイナーなど約600人が集まって盛會に行われた。

・第5回 AACAA賞 「街路、広場照明とその造形の一連の作品」

提出された作品は、aacaが求める環境の芸術化に対し応えられたみごとな作品といえます。

・「阪神大震災」震災地を訪ねて

阪神大震災の現地報告。建築や周辺環境に密接に結びついた工芸・美術に着目した視点は乏しく、建築・美術・工芸等の分野で活躍するものは、地震その他災害を考慮することが比較的少なかった。今回の調査が災害を通じて、文化が持つ社会的意味を考えるきっかけを見出したことにも 大きな意義がある。 — 調査研究委員会



文化庁長官/遠山敦子氏(当時)

1996(平成8年)

・'96北九州シンジウム テーマ：「開発と保全」

10月北九州国際会議場メインホールで開催。

門司では、昔の面影を残す歴史的建造物を修復、復元、再生などの手法を用い懐古イメージを中心とした新しいまちづくりをして再びまちを甦らせようとした。「まち」づくりで常に当面するのは開発と保全という矛盾する要素を如何に調和させていくかである。

・第6回 AACAA賞 「平和の森公園」

この計画の一番の見所は、小川を取り込んで川の両岸に展開された環境作りであろう。



建築当時の美しい姿を見せる旧大阪商船

— 會田

1997(平成9年)

・'97仙台aaca景観シンポジウム テーマ：「杜と景観」

新緑が映える6月、「杜と景観」をテーマとしたシンポジウム 杜の都・仙台で580名の参加で盛大に開催される。

・第7回 AACAA賞

「三井海上千葉ニュータウン本社ビル他
一連の建築における空間造形」

贅をつくすことではなく、きわめて知的で静謐なそしてぬくもりを感じさせるアート作品として。 — 近江 栄

・研究レポート 「水上から見た東京の景観」 — 調査研究委員会



仙台市



パブリックアート

1998 (平成10年)

- ・'98飛騨高山aaca景観シンポジウム
 テーマ：「まつりと景観」
 10月小京都飛騨高山市民文化会館で450名の参加で開催。
 高山市では古い町並みが住民先行の形で保全事業が進められていましたが、官民共同で推進することで市民意識の高揚と制度が相まって古い町並みの保全が行われている。
- ・第8回 AACAA賞 「モエレ沼公園」
 183haのモエレ沼はゴミ集積による埋め立てと同時に公園整備としてイサム・ノグチ氏のマスタープランより完成。
- ・研究レポート 「文化芸術と都市空間」
 —調査研究委員会



第8回 AACAA賞/モエレ沼公園

1999 (平成11年)

- ・'99広島景観シンポジウム
 テーマ：「瀬戸内文化と景観」
 10月広島県民文化センターで開催。
 新しい時代に向けて瀬戸内海が生み出してきた文化と景観と今後について語り合った。
- ・第9回 AACAA賞 「SPRING TECTURE播磨」建築としての機能考慮したうえで遊び感覚を導入した提案。



第9回 AACAA賞/SPRING TECTURE播磨

2000 (平成12年)

- ・2000奈良aaca景観シンポジウム
 テーマ：「古都と景観」
 7月 なら100年会館中ホールで開催。
 奈良は、日本人にとっての心の故郷であり、遠くシルクロードの終着点として夢とロマンあふれる土地。その地に立ち、先人たちはいかなる思いのもと「まちづくり」をしたかに想いをはせ、わが国の都市景観のあり方を考える。
- ・第10回 AACAA賞
 「潜在する音の海」
 —Wave Wave Wave, Umi—Tsukushi
 音は環境と造形の触れ合いのテーマで比較的新しい分野、その意味でも先駆的業種として評価すべき作品。



シンポジウム風景

2001 (平成13年)

- **2001高山aaca景観シンポジウム** テーマ：「森林文化と景観」
10月森林文化と景観をテーマとするシンポジウムが岐阜県高山市の小高い丘にオープンしたばかりの飛騨・世界生活文化センターで開催され、雨の中会場は一般の視聴者に加えて地元の高校生も多数参加。開会前から強い熱気が感じられた。
- **第11回 AACAA賞** 「善き牧者愛徳の聖母修道会 本部修道院」
礼拝堂、及びホールの和紙による造形はすばらしく感動的な空間をつくり出していまいした。 —内井 昭蔵



飛騨・高山市

2002 (平成14年)

- **H14年 8月 内井昭蔵副会長 御逝去**
夏の暑い朝、内井先生は突然に逝ってしまわれた。思い出すたびに悲しみに沈む。先生の健康な建築と社会貢献そして何よりひたむきな生き方を私達は忘れず継承し伝えて行かなければならない。 —仙田 満
- **2002函館aaca景観シンポジウム** テーマ：「港町函館の景観」
10月函館市芸術ホールにて開催。
港とひかり、函館山を頂点として砂州でつながり陸と山の地形の中で都市が展開。世界の中で非常に稀な函館山からの夜景はまさに天下一品。湾岸都市の景観、新しい生活環境や芸術的価値観を持つ景観の創出について意見が提案された。
- **第12回 AACAA賞** 「丸の内ビルディング」
巨大商業空間において建築とアートのコラボレーションの効果が充実に発揮された成功例であろう。 — 會田 雄亮
- **第1回 芦原義信賞** 「アートガーデン」
あらたに芦原義信賞が新設される。芦原義信賞は「優れた創造的環境形成に寄与した未来ある新人」に与えられる。

故 内井昭蔵



aaca景観シンポジウム ポスター

2003 (平成15年)

- **H15年 9月 芦原義信会長 御逝去**
aaca設立以来15年間、建築・美術・工芸を統合し、文化の交流発信に大きな貢献をされた会長芦原義信先生の御逝去に対し全会員の哀悼をここに捧げます。 — 阪田 誠造
- **H15年10月新会長に阪田誠造氏**
- **aaca設立15周年記念事業「歴史的建造物保存」シンポジウム**
テーマ：「日本工業倶楽部会館の保存について」
12月日本工業倶楽部会館においてパネルディスカッションが行われた。丸の内に残り少なくなった歴史的建築物である日本工業倶楽部会館をどのように位置づけて、丸の内全体の都市計画の中に取り入れていくかが課題でしたが、日本工業倶楽部永楽ビル街区を一体開発することにより経済的な問題を解決し保存再生を実現させた。古い歴史的建築物が残る良い事例となった。
- **第13回 AACAA賞** 「鹿北町アートプロジェクト」
シンプルな、コンストラクションの原点そのものによるこの作品は、ハイ・テク万能の今日、完全にロウ・テクによって作られていることにも、一つのメッセージ性がある。
- **第2回 芦原義信賞** 「名古屋クロイゾンスクエア [安藤七宝店計画]」



故 芦原義信



aaca景観シンポジウム ポスター



阪田誠造

2004 (平成16年)

• aaca15周年記念展覧会開催

2月「わざ業・わざ技」展

江戸東京博物館にて18社+89点もの出展があり、入場者数4,800名をかぞえました。

AACA賞、芦原義信賞、受賞作品のほか文化庁海外派遣作家作品、会員作品、法人会員の存在実績を広く社会に紹介しました。

• 2004 aaca景観シンポジウム

テーマ：「歴史的な建築は街を美しくする」

—明治生命ビル街区再開発と都市環境—

10月丸の内MYPLAZAホールにて開催。

重要文化財「明治生命館」は民間の生命保険会社の本社機能として使い続けられ、街区として整備されその後も明治生命館は現役の業務ビルとして活用されています。画一的な都市でなく、歴史的な建物の残る都市環境には魅力があり多くの人々を引き付けている。

• 11月 京都北山・美山景観シンポジウム テーマ：「地域再生の可能性を探る」

北山の实情に立って調査研究を求められたことから始まり地域再生や文化継承、景観保存に果敢に取り組まれた地元とaaca参加メンバーとの間に活発なアイデアや意見交換がなされた。

• 第14回 AACAA賞 「今治地区火葬場すいふう苑」

火葬場という室を美術館のように明るい空間に提案している点が新鮮であり、また美術作品群と建築との関係も優れている。 —仙田 満

• 第3回 芦原義信賞 「安曇野 高橋節郎記念美術館」



aaca景観シンポジウム ポスター

2005 (平成17年)

• 新会長に中島昌信氏

新しい時代を意識するとき、協会の組織は決定の意志と責任を合わせ持ったそれぞれの委員会が有機的に繋がる構成でないと対応するための行動がとれないと思います。 —中島 昌信



中島昌信

• 2005横浜aaca景観シンポジウム

テーマ：「横浜の景観デザイン戦略」

10月横浜市中区関内新井ホールにて開催。

横浜はデザイン都市として日本のデザイン界をリードしてきた。横浜らしい景観とは何か、横浜の景観デザイン戦略とは何か、熱い意見が交わされた。

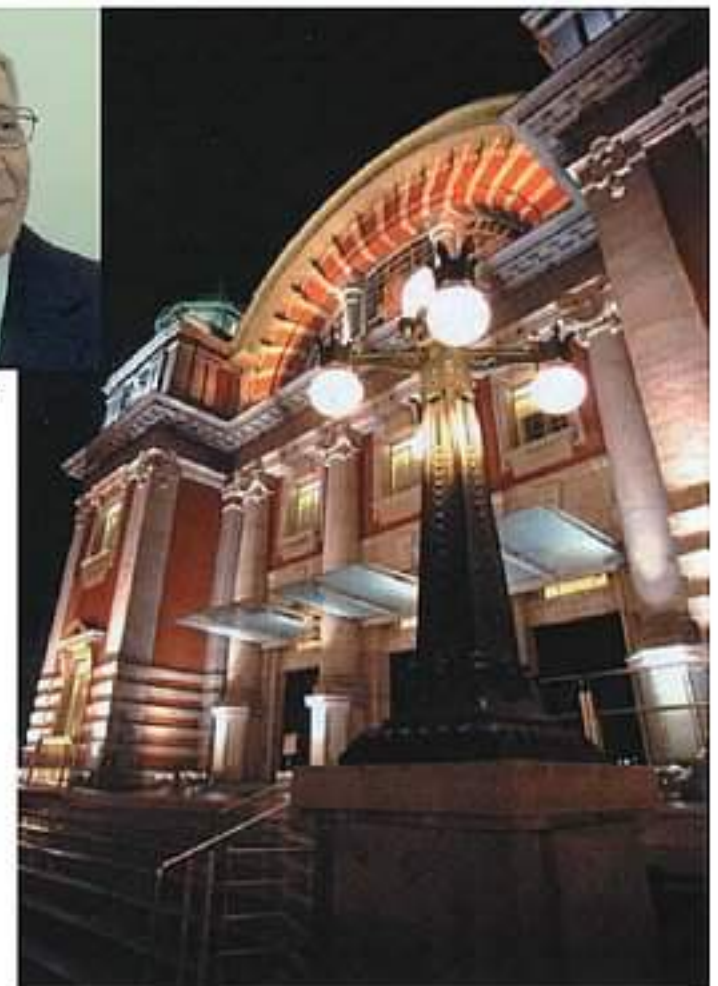
• aacaかんさい発足

歴史と伝統ある関西を地盤に活躍されている方々と共に、集会・見学会・セミナーを継続的に自由な雰囲気で行い、良き人間関係のもとで、造形行為を通じて社会・文化の継承・発展に寄与したいと考えます。 —aacaかんさい 代表 西村 征一郎

• 第15回 AACAA賞 「INFLUENCE」—空間と人に作用する家具—

くじらシリーズモルフェシリーズ万華鏡シリーズ 一連の作品
アートの領域に深く入り込んだ藤江氏の家具は、建築空間に溶け込みながら、同時に空間全域を斬新なイメージに塗り替えるほど強く存在する。 —安田 幸一

• 第4回 芦原義信賞 「リーテム東京工場」



大阪市中央公会堂

2006 (平成18年)

- 3月 2006 aaca特別見学会 重要文化財 明治生命館
「歴史的な建築は街を美しくする」
- 2006 aaca景観・文化講演会
テーマ：「まち・人・アート 空間の支点「彫刻」」 —安田 侃の世界—
6月丸の内MYPLAZAホールにて開催。
建築とパブリックアートに係る芸術的環境の創造について「丸の内の街づくりとアートへの取り組み」のテーマでお話がありました。
- 2006鳥根景観シンポジウム
テーマ：「いわみ元気フォーラム」 —風土・文化・そして景観—
10月鳥根県益田市 鳥根県芸術文化センター大ホールにて開催
石見は2005年10月までに市町村合併を果たし、さらに美術館グラントワをオープンさせました。この施設は鳥根県の特産、石州瓦28万枚を使用して建物全体を覆ったもので、まさに鳥根の文化を象徴する屋根となりました。
地域の人々はこの文化拠点から積極的に地域文化・風土の掘り起こしとともに新しい時代の文化創造に向けて果敢に取り組んでいます。
- 第16回 AACAA賞「明治生命館」の保存・再生 —明治生命館街区再開発—
昭和9年に完成した建物で重要文化財に指定された「明治生命館」を保存してアトリウム・パッサージュという公共空間を設けて再生した手法が高く評価された。 —仙田 満
- 第5回 芦原義信賞 「星のや軽井沢」



aaca景観シンポジウム ポスター

2007 (平成19年)

- 第1回 4月卯月展はじまる
生活空間を意識し様々な素材・表現手段で今を創造するというコンセプトのもとに賛同して集まった作品展。
- 第1回12月 aaca+7展はじまる
現代の生活空間に不可欠なアートと真摯に向き合い常に積極的な空間演出を試みている。
- 第17回 AACAA賞「佐川美術館 楽吉左衛門館」
楽吉左衛門氏の陶芸作品を中心にその作品の世界を建築空間として呼応させた。静謐で密度の高い空間構成が建築と美術の統合を新しい形で実現させた。 —澄川 喜一
- 第6回 芦原義信賞 「横河電機株式会社 金沢事業所」



佐川美術館 茶室

2008 (平成20年)

- 20周年を迎えて
協会設立時の理念を継承した記念事業開催される。
- 第12回 アートバラダイス展
6月で第12回目となる「この楽しい空間に遊びに来ませんか？」
- 第7回 シナジー展
10月で第7回目となります。シナジー（さまざまなジャンルの作家がつどい参加することで生まれるエネルギー）の理念から新しい可能性が発見されることを期待しています。





アピアランス

「アピアランス」について

石田 真人

協会広報誌の「アピアランス」は、会員の芸術活動の紹介の場として、94年10月会報「17号」より、03年9月「42号」まで毎回4名の会員により投稿を受け26回にわたり、104名の方々が掲載されました。投稿者の多くは工芸分野の会員でしたが、建築、美術分野の会員も参加されました。「43号」以降は協会の活動予算のひっばくから、会報出版予算が限られ、ページの削減・モノクロ印刷での発行等の理由で中断を余儀なくされ、個人会員の皆様の芸術活動の発表する場を確保できずに今日まで至りました。

本年、協会設立20周年記念誌発刊にあたり、芦原義信会長の提唱された、協会理念の原点に戻り会員の活動分野を超えたコラボレーションの充実を図り、建築家・美術家・工芸家とその成果の具現を支える法人会員が、一致協力して社会に貢献してゆくため、「アピアランス」の場を復活させたいとの思いで、記念誌に掲載することを提案いたしました。今後は、協会広報誌の発展に会員自ら参画され、活動分野を超えた会員同士の交流も高め協会のさらなる発展に寄与する企画となることを祈ります。
(総務委員長・前広報委員会委員長)



■掲載は50音順とさせていただきます。

個人会員

遊部 文吾

Asobe Bungo

略歴・活動

代々家業の漆塗りの家に生まれ東京芸術大学漆芸科卒業後、祖父・父の下で漆塗り・蒔絵・金箔押しの修行をする。

現在株式会社遊部ロイロ工芸代表取締役

川越東照宮・上野寛永寺勅額門・西本願寺大阪別院・西本願寺口サンゼルス別院・京都阿含宗総本山等手掛ける。

メッセージ

重要文化財等(社寺建造物)漆塗り工事を手掛けてきました。戦前は東京の宝塚劇場壁面や戦後は歌舞伎座の朱塗りの丸柱等先代は手掛けました。コンクリートに漆を塗る事が出来なかったものを特許を取り実現しました。近代建築にも漆塗りを取り入れても良いと思っております。

連絡先

E-mail/asobe@jasmine.ocn.ne.jp

ホームページ/http://www.asoberoyro.com



日台院霊園勅額門/保存修理漆塗り

天方 光彦

Amakata Mitsuhiko

略歴・活動

1965~6年 ジェームズ・リー・バイヤーズの空間芸術論の授業に参加

1967年 フジカワ画廊に入社

1981年 同社取締役に就任以来現在まで、国公立美術館の価格査定評価委員として協力30年間親しく交流いただいた飯島一次画伯の歴史建築の話に感銘す。府中市美術館・牛島憲之記念館運営懇談会メンバー。

メッセージ

1936年にフジカワ画廊を創業した美津島徳蔵(1997年逝去)は、豊かな文化国家の実現を夢見てこの道に入り、1953年村野藤吾氏設計による画廊ビルを竣工、ブルデル、ザッキン等の彫刻や印象派の絵画、佐伯祐三、岡鹿之助、牛島憲之他の名作展を数多く開催。美術館納入、公開等で夢の礎を築き、フランス国の文学芸術勲章最高位コマンドールを授与され、業界初の勲三等瑞宝章も受章。その遺志を受け、現在のスタッフで夢に向かっていく。

連絡先

フジカワ画廊 TEL/03-3574-6820 FAX/03-3574-6206

E-mail/tokyo@fujikawa-tokyo.co.jp



雨山 智子

Ameyama Tomoko

玉川高島屋

略歴・活動

- 1988～ 新制作展 (1995、2003新作家賞)
- 1989～ 建築空間におけるテキスタイル作品の制作
- 1993～96 目黒雅叙園アートプライズ
- 1993～ 個展6回
(ギャラリーアメリカ、ワコール銀座アートスペース)
- 2007～08 玉川高島屋S.Cエントランス作品展示/グループ展等多数
新制作協会会員
- 2008 卯月展出品

メッセージ

作品が存在することによって生まれる「空気感」を大切に制作している。テキスタイルの豊かなテクスチュアと、自分自身の表現から、空間に新たな「気配」をつくることができればと思う。



2008新制作

石田 真人

総務委員会委員長・広報委員会委員

Ishida Masato

略歴・活動

- 1967 早稲田大学工学部建築学科卒
大成建設株式会社入社 東京・横浜・九州支店建築部在籍
- 1982 同社 建築営業本部転籍 民間建築営業業務に従事
- 1994 同社 建築営業本部営業統括部長就任
- 2004 同社退職 京急建設株式会社入社 現在に至る

主な建築工事

- 1969 新日鉄ビルディング新築工事
- 1970 寒川神社参集殿新築工事
- 1972 指宿観光ホテル新築工事
- 1974 チェコ大使館新築工事

主な営業作品

- 1992 龍角散ビル (写真・大成建設設計施工)

メッセージ 1994年入会、広報委員に。協会活動を通じて文化に係わる広い分野の会員との交誼を得て、未知の文化に接することの喜びを感じております。元気の続く限り、協会発展に尽力していきたい。

連絡先 社団法人 日本建築美術工芸協会 事務局

龍角散ビル



巖佐 純子

Iwasa Junko

略歴・活動

東京セントラル美術館日本画大賞展、日本画21世紀展十美賞・河北賞、国際美術大賞展、今立現代美術紙展、昭和会展招待など。
日蘭交流400年記念展招待、日韓交流美術展招待、版芸術国際交流展招待など。
東京・神戸・福岡・中国(上海)・オランダ・韓国(釜山)・スペイン・アメリカ(NY、シカゴ)・ドイツ(ベルリン)・カナダなどで個展・グループ展など数十回。

メッセージ

大理石などの直線的な雰囲気のある壁面に和紙の暖かな素材、色、形で皆の心がなごむようにと思い、レリーフ・オブジェなどの作品を創っています。素材は紙ですが、陶板や銅板を想起させ、自由なイメージで多様に表現しています。

他の作品はHPをご覧ください。

連絡先

ホームページ/ <http://www1.bbq.jp/iwasa/>



内田 滋子

調査研究委員会委員

Uchida Shigeko

略歴・活動

東京学芸大学美術家卒、彫刻家広井力氏に師事
 専門学校“色彩と造形”講師 日本美術家連盟会員
 2005 第55回モダンアート展入選「心響」
 2007 第57回モダンアート展協会優秀賞「王と王妃」
 損保ジャパン美術財団奨励賞「王と王妃」
 2008 損保ジャパン美術財団奨励賞「共に生きる」
 2008 彫刻村37周年記念彫刻展「生命の息吹」
 2008 モダンアート俊英作家展「その向こうに」
 卯月展出品

メッセージ

自由で伸びやかで時に力強く、荒々しく、時に繊細で優美な生命力溢れる木を使って自分の精神性を木に移し出し、木がそれに呼応してくれた時、木は新たな生命を宿すと考えます。それにより洗練されたしなやかな空間を再構築できればと作り続けています。

連絡先

E-mail/color_consul@jcom.home.ne.jp



大島由美子

Ohshima Yumiko

略歴・活動

個展/村松画廊、日辰画廊、画廊るたん等。
 グループ展/春陽展、CAFN展、CAT展、タイ・チェンマイ大学展、
 アルメニア現代美術展、日韓交流展、アートWAVE 2008、
 バリ・コンパレゾ展等。
 パブリックアート/世田谷区、関西外語大学等。
 文化庁現代美術選抜展、損保ジャパン美術財団奨励賞。

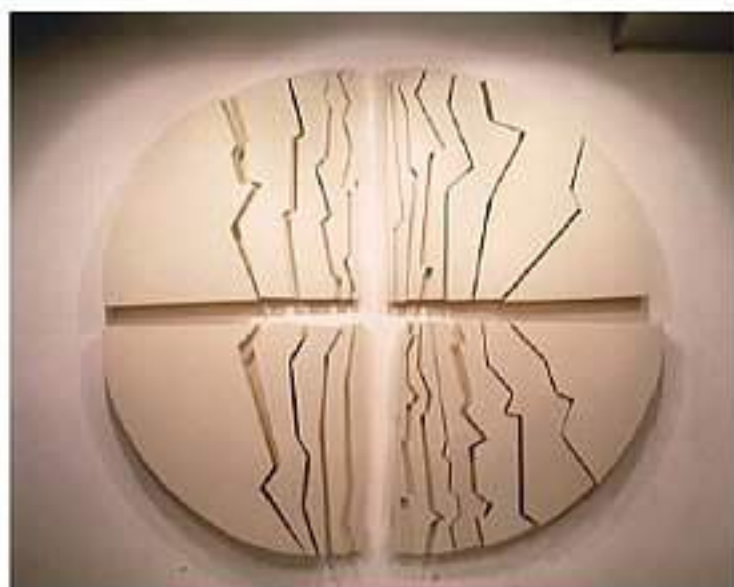
メッセージ

木を組み立て、彩色したレリーフ状の作品を主に制作しています。現代を生きている作品でありたいと思っております。
 造形的であり、洗練された空間に近づきたいと夢をふくらませています。

連絡先

E-mail/oshima@mth.biglobe.ne.jp

住所/〒177-0035 練馬区南田中4-27-8



小野 行雄

調査研究委員会委員

Ono Yukio

略歴・活動

1946 栃木県生まれ
 1969 日本大学生産工学部建築工学科卒業
 1996 東京造形大学教授（現在に至る）
 現在 aaca会員（調査研究委員会）
 新制作協会会員（スペースデザイン部、尾埜行男）
 日本日時計の会会員（監事）
 英国日時計協会会員
 受賞 第9回国文化祭審査員奨励賞（1994年・三重）
 AACAA賞特別賞（2001年・日高早也氏、山本誠氏との共作・群馬）
 第7回国際日時計コンテスト プロ部門1位（2002年・イタリア） その他

メッセージ

社会がますます忙しくなっている昨今、たまには大空の下、太陽を仰ぎながらゆったりと安らぎの“時”を過ごしてはいかがですか。
 両手を広げ、深呼吸し、体を軽く動かすのは心地よいものです。
 このような気分になれる環境造形をめざしています。

連絡先 E-mail/ono@zokei.ac.jp



香川 亮

Kagawa Makoto

略歴・活動

- 1960 広島に生まれる
- 1986 多摩美術大学大学院 美術研究科日本画修了
現在 沖縄県立芸術大学 准教授(創画会所属)
- 1985 ne'o-japongus雅(六本木フォーラムビルB1階) 日本画壁画制作
- 1986 第22回神奈川県美術展 特選受賞
- 1987 第13回春季創画会東京展 春季展賞('89、'90、'92 同賞受賞)
- 1988 文化庁青年芸術家国内研修員(東京・京都)

メッセージ

現代の日本画における動物の生命感についての表現研究や、風景における土や石や水に語りかける制作をしています。

新に伝統の創作木版画における現代性についても研究と制作を始めました。現代日本画の個人研究です。

連絡先

沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 絵画専攻日本画



笠原 オリエ

Kasahara Oriie

略歴・活動

- 東京生まれ
- アトリエOSK主宰
- 航空会社勤務時に国内外の手描きの陶磁器に魅せられて工房、窯元、美術館を回る。チャイナペインティング、有田絵付、九谷絵付、ポートレートを各氏に師事、指導資格認定取得。

個展、展示会、グループ展にて作品発表

メッセージ

太陽・水・空気・土に満たされた生物体に出遭った時の、心安らぐ思いを自然体で色褪せる事の無い陶板画に表現したいと心掛けています。

陶磁器は「食」生活に定着しながら楽しませてくれる魅力有る存在ですが、「住」においても空間を彩る美術品で有って欲しいと願って描いています。

連絡先

ホームページ / <http://www5d.biglobe.ne.jp/~orsike/>

TEL / 03-3987-5021

E-mail / chinaosk@yahoo.co.jp



片岡 雅子

Kataoka Masako

略歴・活動

- 東京学芸大学美術科卒業 モダンアート協会会員 日本美術家連盟会員
- 1985年～絵画としての七宝を研究
- モダンアート展へ出品
- 個展(銀座ギャラリーモテキ)
- 他グループ展
- 2003年～俊英作家展
- 2006年～圏域美術家展(多摩5市代表)
- 2007年～卯月展へ参加

メッセージ

忙しい毎日を送る自分、果たしていまだかつてゆっくりと自分を見つめる時を一瞬でも持っただろうか。いや季節の移ろいさえも何となく程度に感じていた自分がそこにいた。自然から受ける「限りない恩恵」という言葉はいつまで使えるのであろう。悠久の流れの中で太刀打ち出来ない自然に感謝をし改めてゆっくりと見つめなおし、自然と共存出来たらと思います。

連絡先

E-mail / art-cafe.kataoka@crocus.ocn.ne.jp



河野 有悟

Kouno Yuugo

東京松屋UNITY

略歴・活動

1969年東京生まれ、美術大学建築学科卒。
早川邦彦建築研究室を経て河野有悟建築計画室設立。武蔵野美術大学非常勤講師。
作品「東京松屋UNITY」にてaaca芦原義信賞奨励賞、日事連建築賞優秀賞、グッドデザイン賞受賞。
その他、住宅作品にて竹山実賞、東京建築賞受賞。

メッセージ

“河”は時の流れのなかで地域や領域を形成し、文化や生活圏を育む源でもありあまた。 “河”のように、人・街・文化・生活など時の流れのなかで生きる都市・建築・空間を指向し、対話と過程から生まれる建築や空間の可能性の探求をしていきたいと思っています。

連絡先

E-mail / contact@hugo-arc.com
ホームページ / <http://www.hugo-arc.com/>

**瀬川 秀之**

広報委員会委員

Segawa Hideyuki

略歴・活動

1929 横浜生まれ
1954 日本大学工学部建築学科卒
建設省関東地方建設局 設計課勤務
1955 日本住宅公団へ出向
東京・関東・本社建築部設計課勤務 建築部専門役
公団住宅団地 建物設計 部品開発等に從事
1971 (株)集団住宅建築研究所入社 建築部長～専務
住宅団地、集合住宅設計、工事管理業務統括
1989 社長就任、社名を(株)集研設計に改める。
2000 会長、顧問となり退職。法人会員継続中

メッセージ

1972 欧州住宅再開発視察団に参加、8カ国、24日間
集合住宅地見学。その美的感覚に感動した。
1992 入会、2000広報委員に。協会の発展に尽力したい。

連絡先

社団法人 日本建築美術工芸協会 事務局

**仙田 満**

Senda Mitsuru

略歴・活動

1941年横浜生まれ。1964年東京工業大学建築学科卒。谷口吉郎、菊竹清訓に師事後
1968年環境デザイン研究所創設、所長、現在会長。
1984年より琉球大学、名古屋工業大学、東京工業大学教授を経て、現在放送大学教授。
日本建築学会会長、日本建築家協会会長を歴任。
現在、こども環境学会会長、日本学術会議会員

aaca 活動

1993～1994 AACAA賞・芦原義信賞選考委員
2004～2006 副会長 2004～2007 理事
2004～2006 AACAA賞・芦原義信賞選考委員長

メッセージ

「環境デザイン」とは建築、造園、都市デザイン、インテリアデザイン、アートを通貫するデザイン分野と考えています。日本の都市環境デザインをいかに次世代に継承していけるものにするかがテーマです。

連絡先

E-mail / msenda@ms-edi.co.jp ホームページ / <http://www.ms-edi.co.jp>
環境デザイン研究所 〒106-0032 東京都港区六本木5-12-22 TEL / 03-5575-7171 FAX / 03-5562-9928



高部 多恵子

Takabe Taeko

略歴・活動

女子美術大学芸術学部デザイン科卒
 日本版画協会会員
 平成8年文化庁特別派遣在外研修員としてニューヨーク留学
 壁画・つくばエクスプレス・ヒルトン小田原・目黒雅叙園他多
 版画・版画展にて新人賞、奨励賞、連展にて銀賞、カンヌ国際芸術展にて奨励賞、
 アイルランド国際版画展でTIE賞1位
 コートダジュール国際美術大賞展奨励賞、他賞多、個展102、所蔵・イギリス大英博物
 館、米国議会図書館、他多数
 群像表紙他本表紙多数、パッケージ、ロゴ、マーク制作担当

メッセージ

壁画コメント (写真)

都会の雑踏の中で自然(四季)とのふれあいと活気あふれる都会とのコミュニケーションをテーマとし、進化する秋葉原・つくばエクスプレスのさらなる発展への夢の架け橋となる事を願ってデザインしました(陶壁画5m10×4m)

連絡先

E-mail/t_takabe@msn.com TEL/045-901-2009



長 はるこ

Cho Haruko

略歴・活動

- ・東京藝術大学美術学部デザイン科卒業、文化庁特別派遣芸術家在外研修員としてボストン美術館付属大学留学
- ・現代日本美術展、ポーランド、中国、インドなど受賞
- ・ロサンゼルス、イスラエル、フランス、台湾など収蔵
- ・目黒区美術館、新宿伊勢丹、NY、パリ、トルコなど個展
- ・シナジー展メンバー

メッセージ

色々な連想を喚起する暖かい血の内包されたような形態自作の布のオブジェである“B-cushion”を結んだり捻ったりしてできる立体的な暖かい強さをネパール紙に転写する作品を創り続けています。

2008年春からはフランクロイドライト設計の重要文化財自由学園明日館の西隣にB-galleryをオープンし、自分の作品のみならず多彩な現代美術を発信しています。ご興味のある方はぜひご連絡を!

連絡先

ホームページ/http://www.B-gallery.info,http://www.harukocho.com
 E-mail/baru@beige.ocn.ne.jp



土屋 壽満

Tsuchiya Suma

略歴・活動

1948 国立三重大学卒
 1968 スマ・ブライトアート研究所 設立
 スペイン国立ブラド美術館財団 会員
 NPO法人国連支援交流協会 名誉理事
 万国博、花博、海島博、門真市南部市民センター、
 湊町地下道、NHK大阪放送局、住吉スポーツセンター、
 大阪住吉区民ホール、サントリーホール、他作品多数。

メッセージ

「光は永遠の謎を秘めた宝庫」創作の過程において、また完成した作品に、人智を超える感動に涙する。“この感動”。

建築空間を一瞬にして、芸術空間、アート環境に変える光の芸術を世界中にちりばめ、“この感動を”すべての人に届けたい。これが私に与えられた使命。協会20周年を祝し、会員として使命達成に、悔いなく生き通したい。

連絡先

TEL/06-6698-2525



森道回廊

長崎 哲士

Nagasaki Tetushi

略歴・活動

- 1942年 鹿児島生まれ
 1960～68年 東京学芸大学教授・彫刻家広井力氏に師事
 1968～80年 画家岡本太郎の主催する(株)現代芸術研究所入所・退所
 1980年 東京海上火災保険創立100周年記念陶板レリーフ制作
 1981年 モダンアート展彫刻部門入選作品名「愛」
 1989年 法政大学第二高等学校創立50周年記念モニュメント制作
 1997年 鹿児島市健康の森公園モニュメント制作
 2005年 渋谷区、老人ホーム、保育園コンペティションにより
 モニュメント制作
 2007年 国際武道大学創立20周年記念モニュメント制作

メッセージ

「社会と接点を欠いた美術（つまり作品）は必要ない」
 （英国作家ギルバート&ジョージ、リチャード・デイゴ）
 つまり、私の制作理念としては共生をテーマとして創作活動を行う。

連絡先

住所／〒145-0072 東京都大田区田園調布本町34番7号 TEL／03-3722-8391 FAX／03-3722-8392

**中島 昌信**

理事（会長）

Nakajima Masanobu

略歴・活動

- 1928 東京生まれ
 1951 早稲田大学第一理工学部建築学科卒
 三菱地所株式会社入社
 1989 同社 専務取締役就任
 1993 株式会社 メックデザインインターナショナル 社長就任

主な建築作品

- 1959 慶応義塾大学三田校舎（第1回BCS賞）
 1968 富士銀行本店（第9回BCS賞）
 1981 池袋サンシャインシティ（第22回BCS賞）
 1995 横浜ランドマークタワー（第36回BCS賞）

メッセージ

過去半世紀に及ぶ建築家としての経験は、絶えず環境問題や経済を含めた社会問題の解決が要求されてきたと思います。

また設計が進む過程では、美術家、工芸家の協力が欠かせませんでした。建築美術工芸協会の存在意義は大きいと思います。

連絡先 社団法人 日本建築美術工芸協会 事務局

横浜ランドマークタワー

**中村 弘子**

広報委員会委員

Nakamura Hiroko

略歴・活動

- 1983 東京藝術大学美術学部芸術学科卒
 2001 文化庁特別派遣芸術家在外研修員（イギリス）
 公共・民間施設、個人住宅等制作多数
 aaca主催卯月展メンバー、NPO法人アート多摩 代表

メッセージ

ステンドグラスを主に、ガラスを素材としたレリーフ、オブジェを制作しています。ステンドグラスは1個の独立した作品ではなく、建物に取り付けられ、建物や環境との調和に成功してはじめて作品としての命を得るものです。

作り上げたステンドグラスが、建物や環境に調和し、いっぱい光を受けて輝き始めるとき、大きな喜びを感じます。

連絡先

E-mail／hrk@ceres.ocn.ne.jp



野口 真理

広報委員会委員

Noguchi Mari

略歴・活動

女子美術短期大学造形科卒。
日産自動車株式会社造形部、東洋ガラス株式会社企画課にてデザインの仕事に従事。その後陶素材を中心に造形活動。新制作協会協友（スペースデザイン部）
埼玉美術家協会会員
女子美術大学同窓会理事（企画・運営）
個展、グループ展などで作品発表
aaca卯月展メンバー

メッセージ

自然との融合、自然体のゆたかさを大切に作品を制作しています。
あたたかな空間、自然の要素を場に移動したアートと人、共有する今という時に潤いを、陶でありながらその重たさや硬さから解放された優しい空間が生まれることが夢です。

連絡先

ホームページ / <http://www.geocities.jp/mari2masa/>
E-mail / noguchi_a_mari@ybb.ne.jp



曲

長谷川 亨

広報委員会委員長

Hasegawa Toru

略歴・活動

1979年 日本大学理工学部建築科卒業
1979～80年 慎貞吉建築設計事務所
1980～83年 (株) 建築都市・連合研究所
1984年～ (有) 長谷川亨建築設計事務所設立
1993年～ 東京建築専門学校 講師
1998年～ 日本建築センター 講師

主な建築工事

1983年～ 個人住宅設計多数
1991年 三鷹新川1郵便局 1993年 三鷹婦志家ビル（市長賞）
1996年 三鷹新晴園（商工会長賞） 2002年 元麻布レジデンシャルフラッツ
2003年 旭川デイサービス

メッセージ

建築を志した時、西洋、近代建築の整合性、存在感に取り憑かれたのは自然の成り行きであり、音楽・絵画・彫刻・工芸・詩文学などの芸術的分野でも人にはそれぞれの原風景があるようにすべての原点がそこにあると思います。

連絡先 社団法人 日本建築美術工芸協会 事務局

習志野市S邸



日高 単也

理事

Hidaka Tanya

略歴・活動

1941 東京生まれ
1967 日本大学大学院理工学研究科建設工学専攻終了
1981 日本大学助教授 1993 教授（建築・造形学）
1974～ 新制作協会スペースデザイン部に毎年作品発表を続けている。
1979 新制作協会会員
2000 aaca特別賞受賞（群馬県明和町町制施行記念モニュメント）

メッセージ

大学でデザイン教育に身を置きながら、デザイン作品の発表を続けています。2009年4月より新学科「創生デザイン学科」を開設することになり、目下「アートとテクノロジーを融合するデザイン教育」の確立に向け、学科の責任者として奮闘しています。皆様方のご支援とご理解を賜り、大学人としての最後の仕事を仕上げたいと思っています。

連絡先 日本大学生産工学部建築工学科日高研究室
TEL / 047-474-2496



第72回新制作展出品作品 ランドスケーププロジェクト'08 水辺の空間

増田 憲治調査研究委員会委員 **QACA**かんさい委員

Masuda Kenji

略歴・活動1948 兵庫県生まれ
関西大学卒

1975 7月1日、織部製陶株式会社設立。

2005 日本建築美術工芸協会へ入会。鳥取県境港市における美しい地域景観を残す活動に貢献。普及活動対策に携わっている。

メッセージ

観光客だけではなく、地域住民も積極的に参加するような魅力ある街、時代が移り変わっても残していくべき豊かな歴史、伝統継承する街づくりとユニーク性、ストリート性を打ち出すモダンな街づくりとが上手く融合できるように、パブリックアートロードの重要性を理解し、より一層普及させていくことの必要性があると考えています。是非この変わりつつある境港市へお越し下さい。

**三木 勝**

Miki Masaru

略歴・活動

1957 岡山県岡山市生まれ

1982 東京藝術大学美術学部彫刻科卒業

1995 沖縄終戦50年平和祈念モニュメント制作（那覇市護国神社）

1996 岡山県立生涯学習センターに石像2体設置（設計 芦原建築設計研究所）

1998 第8回足立区野外彫刻コンクール入賞、島六ふれあい公園設置

個展18回、シンポジウム参加2回、シナジー展（運営）他グループ展多数
及び全国各地にモニュメント設置**メッセージ**

命のかたちを永遠に残せないものか。物質は滅び消え去ります。それでも命の流れをかたちに込めたい。石という永久カプセルに閉じ込めて化石化するのです。人間の愛と自然のメッセージを伝えていく塊として、時代の変化とは関係ないままに風化させないで残していきたい。

連絡先 三木勝の詳しい情報はホームページよりご覧ください。

ホームページ/<http://www.miki-sculp.com>

TEL/0466-47-0278 FAX/0466-27-2935

**光本 岳士**

Mitsumoto Takeshi

略歴・活動

1962 岡山県生まれ

1987 東京学芸大学大学院美術教育専攻工芸講座終了

1991 金属造形工房設立

1996 美術工芸振興佐藤基金第13回淡水翁賞

1997 日本クラフト展 日本クラフト賞

2008 Collect（ビクトリア&アルバート美術館/ロンドン）

メッセージ

鉄、銅、真鍮、銀、それぞれの素材の持つ魅力を引き出し、そこに存在することで気持ちが豊かになるような金作品をめざし制作しています。

連絡先 E-mail/mitsumoto_koubou@dab.hi-ho.ne.jpホームページ/<http://homepage3.nifty.com/atelier-ren/>

村岡 靖泰

Muraoka Yasuhiro

略歴・活動

- 1982 英国ロイヤルクラウンスタジオを経てヨーロッパの権威JHスタジオ（スタッフ）
- 1992 国際クラフトフェスティバル富山
99ガラスアートショー・R・O・CHINA国際ガラスアートフェスティバル
(特別招待出品)
- 1997 文化庁新進芸術家在外研修特別派遣（英国）
神戸ファッション美術館（特別招待出品）
- 1999 神戸マイスター（神戸市認定）
- 2004 阪神淡路大震災10周年記念事業・鎮魂のイルミナーレステンドグラス展
(実行委員長)
- 2005 ウィリアム・モリス展ステンドグラスの解説（全国主要美術館巡回展）

メッセージ

少しでも多くの人役に立てば。暮らしを楽しむ住に。

連絡先

E-mail/gis-m@iris.eonet.ne.jp



村上 慶子

Murakami Keiko

略歴・活動

- 1985 日本現代工芸展初入選 1986 日展初入選以後14回
 - 1997 ソウル革に漆と螺鈿を学ぶ
 - 2001 ソウル2人展・仁寺洞美術館
 - 2002 桂由美の革ドレスを制作
 - 2002 ルーマニアブカレスト市立博物館展
 - 2003 ブルガリア文化省スレデッツ招待
 - 2005~06 ブルガリア国際展招待
 - 2007 カザンラック市長より招待 チュードミア美術館
 - 2008 在モンゴル日本大使館より招待 ザナバザル美術館
- ・特許取得(皮革素材の加工方法)アメリカ(2001年)日本(2006年)
 - ・ルーマニア大統領よりHonorary Diploma拝受
 - ・羽田孜元総理大臣より感謝状 ・ブルガリア政府よりAwards Diploma
 - ・モンゴル国立美術大学長より感謝状 ・日本現代工芸賞 会員賞 審査員
 - ・日本-ブルガリア協会理事 文化交流委員 ・個展17回 ・海外展7回

メッセージ 今後 アメリカ、ヨーロッパ数国との計画あり独自の力を最大限に発揮したいです。

連絡先 E-mail/keei@jcom.home.ne.jp ホームページ/http://members3.jcom.home.ne.jp/keei/



村松 映一

理事

Muramatsu Eiichi

略歴・活動

- 1963 早稲田大学第一理工学部建築学科卒
- 同年 株式会社竹中工務店入社
取締役総本店設計担当本部長、代表取締役副社長を経て顧問（2008）就任
- 日本建築学界副会長（1997~1999）、
- 東京建築士会副会長（1998~）、
- 稲門建築会会長（2007~）、
- 千葉大学工学部デザイン工学科非常勤講師（2000~2005）等に從事

メッセージ

政治、経済、文化等グローバルな鳥の目とローカルな虫の目がどう共存するかが求められています。当会の活動も海外のアーティストから注目されるように育みたいものです。—20周年を期に想う。

連絡先

株式会社 竹中工務店
TEL/03-6810-5000
E-mail/muramatsu.eiichi@takenaka.co.jp



門谷 和雄

Montani Kazuo

川崎医科大学校舎棟増築

略歴・活動

- 1987 神戸大学工学部工学研究科建築学専攻修了後、竹中工務店入社現在
竹中工務店設計部設計課長
日本建築学会、日本建築協会（第44回青年技術者）、建築士会個人会員
- 1999 川崎医療短大体育館（第16回日本建築士会連合会賞奨励賞他）
- 2002 アートガーデン(aaca第1回芦原義信賞本賞他)
- 2004 川崎祐宣記念講堂（第8回倉敷市建築文化賞最優秀賞他）
- 2005 坂駅南口複合施設（坂町立図書館+坂駅南口自転車等駐車場）
- 2007 川崎医科大学校舎棟増築

メッセージ

文教施設に比較的多くの建築を生み出してきた。そこでは「知」を高める施設と共に、「情」を育む空間が必要と感じて設計に想いを込めてきた。その空間が内部外部の境界を越えて人々に交感し合い、記憶に残る原風景となる建築環境創りが出来れば素晴らしいと思う。

連絡先 広島県中区橋本町10-10 竹中工務店広島支店設計部
TEL/082-212-0111 (FAX0072)
E-mail/montani.kazuo@takenaka.co.jp



坂駅南口複合施設

安河内 敦子

監事 調査研究委員会委員・展覧会委員会委員

Yasukouchi Atsuko

名古屋・栄・クリスタル広場・モニュメント・光彩

略歴・活動

- 1966 桑沢デザイン研究所インテリア・住宅専攻卒
- 1969 (株)意匠計画 設立 アイグレコ工房 主宰
- 1972~73 1976~80 在イタリア(ミラノ)
- 2001 文化庁特別派遣芸術家在外研修員(ドイツ)
- 日本ガラス工芸学会会員理事 目黒区芸術文化振興財団評議員
- ガラスを中心に金属、石、木材等の素材でモニュメント、壁画、オブジェ、クラフト製品の企画、制作

主な仕事

名古屋・栄・クリスタル広場・モニュメント：光彩(写真)
川崎・聖マリアンナ医科大学病院：マリア像ガラス光背、壁画、
新校舎ガラス校章 登別・第一滝本館：ステンドグラス
東京・首都大学東京・大ホール：ステンドグラス 等

メッセージ

造形作家として「アートで今何が出来るか」を問いながら作品の制作、発信をしている。

連絡先 (株)意匠計画 TEL/03-3793-8052 ホームページ/http://www.aigreco.com



山崎 輝子

広報委員会委員

Yamazaki Teruko

略歴・活動

- 女子美術大学デザイン科卒・日展会員・現代工芸美術家協会評議員・皮革造形美術グループ「ド・オーロ」同人
- 台東区研修センター講師・クラフト2主宰
- 現代工芸賞・大賞・NHK会長賞・日展特選2回・審査員
- 個展6回・グループ展多数、卯月展代表
- 女子美術大学・横浜善光寺・那須海城高校・他収蔵

メッセージ

皮革を造形表現の素材として発表してから故大久保婦久子先生に出会いました。生活の中で馴染みある革も、自己表現素材としてアートに高めた先生はパイオニアとして活躍され2000年に文化勲章受賞されました。その残された道を歩みつつ食の副産物として生まれた皮革素材が新たな生活空間へ再生されることを願い制作しています。

連絡先

E-mail/te-yamazaki@jcom.home.ne.jp



五穀豊穡

余頃 明

Yogoro Akira

メッセージ

店舗づくりや居宅づくり等どうすれば質の良い空間が出来るか？
それ等は、全て質の良い暮らしが基本だと考えてまいりました。
この21世紀は、地球にやさしいゆるやかな成長と、質の良い暮らしの出来る世の中をつくるのが大事だと思っております。
高収益だの急成長だのと言った事は、20世紀で終焉だと考えるのは何故でしょうか？
21世紀の大きなテーマは、高収益 高利潤等では無く、人間味豊かで、質の良い暮らしのある世の中をつくる事こそが
我々の取り組む大事なテーマだと思っております。

連絡先

自在塾 メリーガーデン+ものづくり仲間達
〒630-2174 奈良市横田町297 (大和高原)
TEL&FAX/0742-81-0712
E-mail/ayogoro@nifty.com
P.T/090-7092-7201
P.T-E/nara-yogoro@docomo.ne.jp



渡邊 たまえ

Watanabe Tamae

略歴・活動

1990 東京芸術大学彫刻科卒業
1999 ニューヨーク滞在 アートスチューデントリーグに学ぶ
個展 ギャラリーオカベ、番町画廊、ギャラリー克泉、
ギャラリー澄光 (その他 グループ展参加)
2008 フランスMontreuilアトリエ展出品
2007~08 aaca主催 卯月展出品 2009 出品予定

メッセージ

私は土を素材に形を形成しそれを焼いて作品を創っている。本来、土そのものは可塑性があるが焼成というダイナミックな熱変化の過程を経ると確固たる「モノ」として姿を現す。私にとっての「モノ」とは記憶の中の情景、あるいは出会ってきた人たちの様々な思念を具現化したものである。個人的な内なるものから、受け手への普遍的な情景へ、人の心の中の原風景を想起させる彫刻を提示していきたいと思っている。

連絡先

E-mail/tamaew@jcom.ne.jp



法人会員

京急建設株式会社

設立 1961年7月4日

主な営業品目

土木・建築工事の施工及び管理
土木・建築工事の計画・設計コンサルティング
鉄道施設の土木・建築工事及び軌道の施工・保守

実績

観音崎京急ホテル SPASSO、BIGFUN 平和島
グループホーム鐵庵、サングレイス能見台（式番館）
京急メモリアル金沢文庫、京浜急行電鉄羽田空港駅
東京都営地下鉄三田駅バリアフリー工事
京急蒲田駅付近連続立体交差事業工事

ISO認証取得

2000年 品質マネジメント、2004年 環境マネジメント

連絡先

本社 住所／東京都港区高輪2-21-28

TEL／03-3440-4501

営業本部 東京支店／03-3440-5637 横浜支店／045-848-1700 ホームページ／<http://www.keikyu-kensetsu.co.jp>



観音崎京急ホテル SPASSO

理事 中里晋一郎

TOTO株式会社

創立 1917（大正6）年5月15日

事業内容・取扱製品

- ・レストルーム商品（衛生陶器・システムトイレ・ウォシュレット等）
- ・バス・キッチン・洗面商品（ユニットバスルーム・システムキッチン・水栓金具・洗面化粧台）
- ・その他（タイル建材・福祉機器など）

連絡先

ホームページ／<http://www.toto.co.jp/>

連絡先（窓口）／コミュニケーション本部 営業情報部

小坂（03-3595-9581）



あしたを、ちがう「まいにち」に。

TOTO

株式会社山下設計

創立 1928年5月1日

事業内容 ○建築設計○インテリア設計○ランドスケープ設計○リニューアル設計○工事監理○海外プロジェクト○都市開発○マネジメント（PM/CM/LCM）○コンサルタント（事業企画/PFI/医療機材）○調査・診断（企画調査/耐震・劣化診断/環境アセスメント/デュレリジェンス等）

メッセージ ー明日の地球環境を創造するー

山下設計は1928年の設立以来「クライアントへの誠実」を基本姿勢とする建築及び都市計画の専門家集団として質の高い提案と成果の実現を追求してまいりました。創立80周年を迎えるにあたり、私たちはさらなる飛躍を目指して、時代が要求する低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現に取り組み、新たな社会へ貢献することを目指します。

連絡先

住所／東京都中央区日本橋小網町6番1号

TEL／03-3249-1551 FAX／03-3249-1509

E-mail／info@yamashitasekkei.co.jp



株式会社 **山下設計**



石川県庁舎 2008年度 公共建築賞（国土交通大臣表彰）

ルネッサンスやアールヌーボーやセセッションの時代
建築や美術やそして工芸の分野が相互に有機的な関係を持ちながら、
総合化された芸術の運動としてめくるめく時代の華を咲かせてきた。
現代の華一輪ずつを持ち寄った特集を
「一枚の写真」に寄せて語って頂こう。

—「時代の華一輪」のスタートに際して柳澤 孝彦（1990/10 No.4）—

時代の華一輪 1991/10 No. 7



文化庁への報告書…ポーラ・Gシューマン

私の日本における3ヶ月半は、調査研究の日々でした。調査研究は文化と芸術であります。

私の日本滞在は短期間ではありましたが、日本人々の生活の内部をたくさん知ることができました。

私は、日本国文化庁と日本建築美術工芸協会に対し今回の機会を与えて下さったことに感謝するものであります。

aaatトーク 1996/2 No. 20



「命を染めし一竹 が花」久保田 一竹
思い起こせば20才の時、東京国立博物館で室町時代の「が花染」との衝撃的な出会い以来、私の人生は大きく変わった。
私の が花は貧困と失敗の中から生まれた。着物が買えずに同じ生地は何度も何度も染料をかけていった。それがある時、色の中から色が出、色の奥から色が出るといった多色染めの美しさが発見された。これが私の染の原点である。

時代の華一輪

1994/10 No. 17



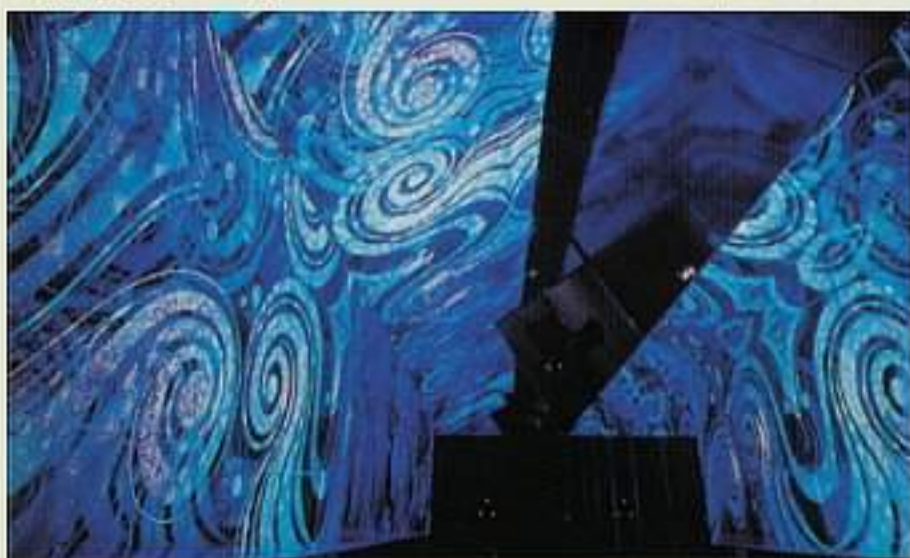
交流の風景づくり…本間 利雄

— 川西町フレンドリープラザの開館 —

川西町は、作家の井上ひさしさんの生まれ故郷である。「故郷で自分の芝居が打てる小さな小屋があれば」との夢を抱いていた井上さんを訪ねた。井上さんの蔵書による「遅筆堂文庫」の存在もあって、発想された建物である。

時代の華一輪

1990/10 No. 4



私と絵画…土屋 壽満

ブライト・アートはガクブチからとびでた環境の絵画である。広場の絵画としても機能するけれど、もっとふさわしいのは建築空間のアート化である。パブリックなものであれ、プライベートなものであれ、これからの建築空間は、きわめてアート化していく要請と傾向をもつ。

aacaトーク

2000/12 No. 33



「表現素材としての皮革」 山崎 輝子

私にとりまして、皮革は非常に気難しいけれど変幻自在な材料です。折る、編む、組む、引っ張る、染める、固める、彫る、縫う、切る等の技術を加える事で実に様々な姿を見せてくれる有機質な素材です。

時代の華一輪

1999/8 No. 29



建築と彫刻の狭間で…清水 九兵衛

とりわけ心に残っているのは、大きさもさることながら、やはり、三井海上火災本社ビルの作品だと思っています。制作課程でこれほど協力して頂いたのは当時としては全く珍しいという気がしてなりません。最近ではずいぶん建築現場の理解も得られるようになりましたが、建築内での仕事を始めました頃は鋳り職人と同一視され、みじめな思いをしたのも度々でした。

ガラスアート…岩田 糸子

今日ブームといわれる現代ガラスは世界的にもまだ日は浅く、スタジオ・ガラス・ムーブメントといわれ、職人的完成度を重要視するのではなく、アートを表現する素材としてガラスを自由な角度で追求し始めたものであり、30余年経った今日 ガラスブームといわれるほどになったのである。

時代の華一輪

2003/9 No. 41



自問自答…日高 単也

ここ数年、私のテーマは自問自答する行為の中に見い出している。日常的に意識にのぼる願望と身近に起きる現実との狭間での葛藤が表現の原動力となって空間づくりの物語り性を生み出している。それには見る位置に応じて作品の表情が多様に変容する多視点的表現が課題となる。

時代の華一輪

1994/8 No. 16





日本の都市の中でなかなか良い風景が見つからないと言われているのは環境デザインと気負って、ヨーロッパやアメリカで見掛けた事のあるような形が人の心に好ましい情景としてフレームワークされないからではないかと思うのです。環境の造形は感じる風景を創る事だと信じているのです。



トイレにも変遷あり…吉村 忠雄

最近街並みや新築オフィスの散策が流行している様であるが、その際、是非怪しまれない程度に、トイレにも足を延ばして欲しいと思っている。大変臭い話で申し訳ない、但し最近のオフィストイレは決して臭くないのでご安心を。



沖縄ではじめて開催されるサミット会場の光を創るという好運なプロジェクトに恵まれた。部瀬名岬の先端に建てられた万国津梁館の夜景をデザインするものである。沖縄独特の大きな赤瓦の屋根、水と緑、そして海辺の棧橋等、サミットの開催を世界に発信出来る光となれば幸いである。



矛盾…工藤 甲人

考えて見ると世の中矛盾する事柄が非常に多い。極端に言えばその矛盾があるから、スムーズに動いているようにも思える。虚と実とか或いは夢と覚醒、光と闇、その他もろもろの相反するものの合体にこそすべてのものの機微があるように思われる。

aacaトーク 2004/4 No. 43 「高齢社会と建物のバリアフリー化」…岸田 孝弥



そこで私共の研究室では、参加型人間工学的アプローチを用いて、高齢者自身が、自分達の為に既存公共建築物を見直し、低コストで改善する方法を提案している。

aacaトーク

1995/8 NO. 19



「刺しゅうと共に40年」…久家 道子

祖母と母が刺しゅうを教える中で育ち、羽仁もと子先生の自由学園に入学し、昭和27年から3年間、恵まれて当時は国外へ出るチャンスが少ない時をチリの公使館で過ごす事が出来たことは、40年も刺繍一筋に自信をもって仕事が続けてゆける原動力と感謝しています。

aacaトーク 1995/3 NO. 18

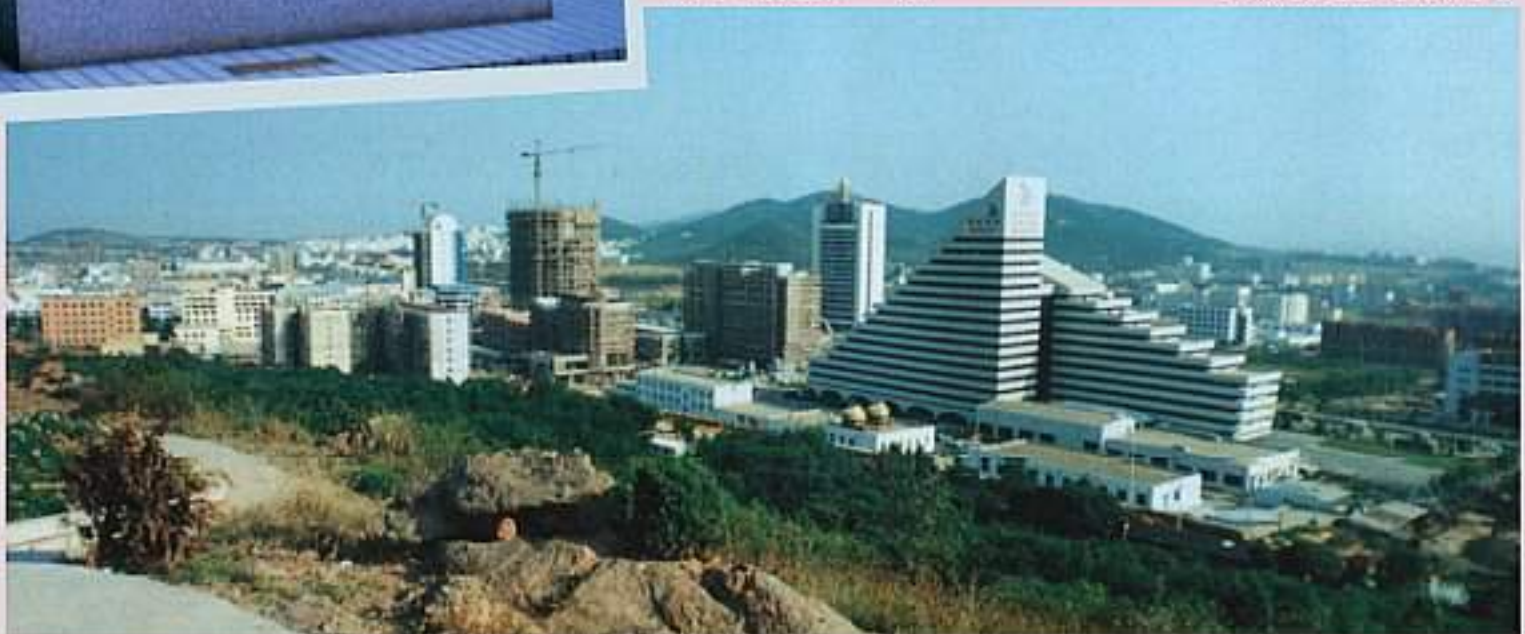


「鍛金について」…伊藤 萌木

少数しか制作できないものならモニュメンタルなものを作るべきだとも考えました。建築空間用の作品としてそろそろ実りがありそうな気がしている今日です。

時代の華一輪

1993/12 No. 14



「大連」の思い出…倉本 真弘

私も、文化大使としての大久保先生を取り巻くツアーの一員として参加する幸運に在り付き、なつかしい大連をお訪れる事になりました。

かつて日本が体験した悲惨な公害の実態を、声を大にして中国に知らせたいと思う。虚飾の外交辞令を交すより、質実率直に語り合う事こそ真の日中友好の鍵であると思う。

工法は変わっても
創るスピリットは
変わらない。

一八九二年、大阪に一つの建設会社が生まれました。
それから、一〇数年、
便利な建設機械が、つぎつぎに増える今でも
創る人間の情熱が、いちばん大切。
その考え方に、変わりはありません。
使う人の気持ちを考えることができるのは
人間にしかできないことだからです。
きちんと創る。私たちが大仕事です。

 **大林組**
OBAYASHI
www.obayashi.co.jp

創業時店舗の瓦工



できあがった建築が人の心をあたたかいものにし、地域を元気にすること。それがわれわれの願いです。

大阪国際大学・短期大学部 食堂棟「Kus-Kus Café(クスクス カフェ)」

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野吉彦

<http://www.yasui-archi.co.jp/>

げんうん
眩暈の曲線。
光が滑り降りるシュプール、
力強く魅惑的に。



Article : External Cladding
Material : Stainless Steel

デビアス銀座ビル ステンレスカーテンウォール

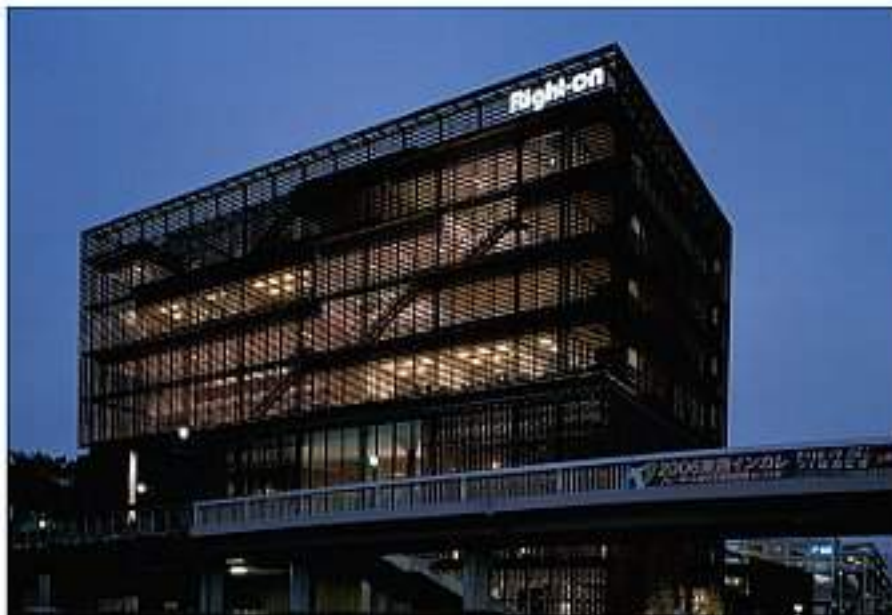
材質：ステンレス(SUS 316)
仕上：パールパイプレーション
施主：Veloax 特定目的会社
デザイン：光井純 & アソシエーツ
設計監理：大成建設(株)
施工：大成建設(株)
西面CW工事：ガートナージャパン(株)
場所：東京都中央区銀座2-5-11

 METAL ARCHITECT 菊川工業株式会社
本社：〒270-1406 千葉県白井市中88-15
TEL.047-482-1331 FAX.047-482-0248
URL <http://www.kikukawa.com> E-mail: info@kikukawa.com



ライトオンつくばビル

霞が関コモンゲート・中央合同庁舎第7号館



赤坂サカス



久米設計
TOTAL DESIGN SOLUTION

代表取締役社長 山田 幸夫

〒135-8567 東京都江東区潮見2-1-22 TEL(03)5632-7811
札幌・東北・横浜・静岡・名古屋・大阪・広島・九州・沖縄・北京・上海
<http://www.kunisekai.co.jp>

中国/天津オリンピックセンタースタジアム (設計)

感動を創る場へ

AXS

AXS SATOW INC.

Architectural Design and
Construction Management,
Urban Development Service

私たちは、建築が地域に根ざし、人々に親しみをもって受け入れられ、感動を呼ぶ場が形成されていくことをめざしています。

株式会社

佐藤総合計画

代表取締役社長 島田 孝好

130-0015 東京都墨田区横網2-10-12 AXSビル
Tel.03-5611-7200 Fax.03-5611-7226
東北・中部・関西・九州・北京

<http://www.axscom.co.jp>

教科書で見た
あの建物も、
大成建設です。



鹿鳴館（明治16年・東京）

サステナブル建築は
地球がのぞむスタンダード。



**SUSTAINABLE
WORKS®**
サステナブル・ワークス

建築を通じて持続可能な社会へ。

例えば、ヒートアイランド対策、省エネルギー、
CO₂の排出量抑制……。

建築に課せられたテーマは、たくさんあります。

私たちは、皆さまのパートナーとして

サステナブルな社会を、一緒に築き上げたいと願っています。

www.takenaka.co.jp

想いをかたちに

 **竹中工務店**

お問い合わせは _____ 広報部へ
〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目1-1 Tel.03(6610)5140
〒541-0053 大阪府中央区本町4丁目1-13 Tel.06(6263)5605

室町 福德塾

日本のこころを味わう、日本橋の文化発信拠点。

「残しながら、蘇らせながら、創っていく。」ことをコンセプトに、
三井不動産株式会社と地元日本橋が一丸となって推進している「日本橋再生計画」。
「室町 福德塾」は、その取り組みの一環として開設された
日本の心を味わう文化発信拠点です。

ここでは、各界の文化人や地元の伝統・歴史を知る
老舗の方々を講師として迎え、平成の寺子屋として
月に数回セミナーを行う「福德塾」をはじめ、
1300年以上の歴史を誇る日本橋の氏神様を祀った「福德神社」、
さらに、日本橋の伝統や季節感を取り入れた和食中心の
食事処「福德茶屋」も併設しています。



福德茶屋



福德神社



東京メトロ銀座線・半蔵門線 三越前駅A6出口徒歩2分

■オフィシャルサイト

<http://www.fukutokujuku.jp/>

各種セミナー情報をはじめ、「室町 福德塾」の魅力さをさらに詳しくご紹介しています。

■お問合せ

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-3-16 三井6号館1F
TEL.03-6202-0599

■営業時間

11:00～23:00 日・祝日定休



都市に豊かさと潤いを

三井不動産

記念事業 協賛会員 ご芳名

(敬称略)

個人会員ご芳名

芦原 太郎	巖佐 純子	加藤 貞雄	仙田 満	中村 弘子	増田 憲治	山崎 輝子
遊部 文吾	内田 滋子	北村 孝昭	園浦 眞佐子	中村 元隆	三木 勝	余頃 明
天方 光彦	宇津野 和俊	河野 有悟	高部 多恵子	長崎 哲士	光本 岳士	渡邊 たまえ
雨山 智子	大島 由美子	作山 忠	竹生田 正	野口 真理	村岡 靖泰	
飯野 毅一	小野 行雄	清水 公夫	立石 博巳	長谷川 亨	村上 慶子	
石岡 俊二	香川 亮	清水 重男	長 はるこ	日高 單也	村松 映一	
石田 眞人	笠原 オリエ	澄川 喜一	土屋 壽満	堀 奉博	門谷 和雄	
稲葉 亘快	片岡 雅子	瀬川 秀之	中島 昌信	本田 宣之	安河内 敦子	

法人会員ご芳名

有限会社 芦原建築研究所	京急建設株式会社	株式会社 竹中工務店	三井不動産株式会社
株式会社 大林組	株式会社 坂倉建築研究所	TOTO株式会社	みはし株式会社
菊川工業株式会社	株式会社 佐藤総合計画	株式会社 日建設計	株式会社 安井建築設計事務所
株式会社 久米設計	大成建設株式会社	株式会社 水澤工務店	株式会社 山下設計

記念事業 参加会員 ご芳名

(敬称略)

個人会員

芦原 太郎	鍵井 保秀	近藤 正一	関 玄達	中川 幸成	日高 單也	速 健夫
雨宮 智子	笠原 祥子	坂上 直哉	高部 多恵子	中島 昌信	七字 祐介	村松 映一
飯野 毅一	片岡 雅子	阪田 誠造	高濱 英俊	中村 清美	平山 健雄	村松 勢津子
石氏 克彦	片田 佳子	作山 忠	田上 秀司	中村 茂幸	文月 恵津子	安河内 敦子
石田 眞人	加藤 貞雄	佐藤 昭生	田河 宣行	中村 弘子	古川 潤	山崎 輝子
市村 逸人	川原 昭	佐藤 静子	竹生田 正	長崎 哲士	堀 奉博	山本 秀明
井上 剛	川北 英	澤井 あい	立石 博巳	野口 真理	本田 宣之	山本 誠
井上 一	川村 純一	鮫島 貴子	多田 善昭	野村 充	本保 基人	横河 健
伊藤 琴志	工藤 康博	庄 漫	手嶋 保	長谷川 亨	松本 哲夫	余頃 明
岩井 光男	蔵田 寛	白砂 伸夫	茶ノ木 宏次	服部 陸美	増田 憲治	奇神 宗美
内田 滋子	小菅 栄	澄川 喜一	長 はるこ	浜崎 ペア	三木 勝	渡邊 早苗
大河内 久子	神代 良明	菅田 カツ子	露口 典子	林 茂	村井 修	渡邊 たまえ
岡村 光哲	河野 有悟	瀬川 秀之	道家 駿太郎	はやし まりこ	村井 久美	
小野 行雄	小林 治人	園浦 眞佐子	席屋 正	伴 紀子	村岡 章年	

法人会員

株式会社 アートフロントギャラリー	三協立山アルミ株式会社	日新工業株式会社
旭化成建材株式会社	三基ルーバー株式会社	株式会社 日建設計
有限会社 芦原建築研究所	新日軽株式会社	株式会社 日本設計
株式会社 池袋松屋	清水建設株式会社	株式会社ヒガノ
株式会社 INAX	SHIMIZU TOSHIO ART OFFICE	フィグラ株式会社
宇部建設資材販売株式会社	株式会社 染野製作所	株式会社 藤商コーポレーション
エー・アイ・エム株式会社	株式会社 タカタ 東京支店	不二窯業株式会社
エルコライティング株式会社	株式会社 タウンアート	文化シャッター株式会社
大塚オーミ陶業株式会社	大成建設株式会社	保土谷建材工業株式会社
株式会社 大林組 東京本社	太陽工業株式会社 東京支店	三井不動産株式会社
織部製陶株式会社	株式会社 TAKリアルティ	株式会社 三菱地所設計
株式会社角藤	株式会社 竹中工務店	みはし株式会社
鹿島建設株式会社	中央建材工業株式会社	美和ロック株式会社
株式会社川島織物セルコン	TOYO株式会社	明治安田生命相互会社
菊川工業株式会社	東京ガス株式会社	株式会社 メック・デザイン・インターナショナル
株式会社 クマヒラ	戸田建設株式会社	株式会社 安井建築設計事務所
株式会社 久米設計	株式会社 トミタ	株式会社 山下設計
株式会社 クロタニコーポレーション	株式会社 豊田商店	株式会社 ユニオン
小岩金網株式会社	株式会社 ナカサンドパートナーズ	横浜ビル建材株式会社
株式会社 コトブキ	株式会社 日本アロフ	

記念事業 一般参加 法人・団体 ご芳名

(敬称略)

一般参加 法人・団体

- 株式会社 アーキテクトファイブ
 アート・アンド・ソサイエティ
 有限会社 アトリエトラベル
 アラップ・ジャパン
 株式会社 アルモ設計
 藍建築工房
 株式会社 明野設備研究所
 株式会社 梓設計
 安藤建設株式会社
 株式会社 安藤大理石
 池本工業株式会社
 磯部左官
 伊藤忠丸紅テクノスチール株式会社
 伊藤鉄工株式会社
 有限会社 イワナガ設計
 株式会社 ウォーターデザイン
 株式会社 内井建築設計事務所
 株式会社 A&B設計
 NPO法人 日本文化研究所
 株式会社 エーアンドエム
 株式会社 エーピーシー商会
 株式会社 エスエス
 オイレス工業株式会社
 オノビーアイジー株式会社
 株式会社 オリバー
 株式会社 岡村製作所
 株式会社 小野工業所
 織部製陶株式会社
 川崎宇部生コンクリート株式会社
 株式会社 カンディハウス
 元旦ビューティ工業株式会社
 株式会社 ギャルドユウ・エス・ビー
 株式会社 きんでん
 有限会社 倉澤智建築事務所
 群言堂 (株)石見銀山生活文化研究所
 群馬県富岡市教育委員会
 株式会社 ケント&アルファ
 株式会社 建築画報社
 財団法人 建築保全センター
 コクヨファニチャー株式会社
 コン・クリエイト
 工学院大学
 河野建設株式会社
 株式会社 弘建
 株式会社 サンケン・エンジニアリング
 株式会社 坂倉建築研究所
 埼玉瓦工業株式会社
 株式会社 佐藤金銀店
 株式会社 佐藤総合計画
 三和タジマ株式会社
 島根県
 島根県太田市教育委員会
 島根県太田市大森町有志
 株式会社 集研設計
 杉山経子建築+デザイン研究室
 住商セメント株式会社
 スミセ建材株式会社
 株式会社 スミノエ
 住江織物株式会社
 TAC LTD.
 株式会社 ダイキアクシス
 ダイハツディーゼルNN株式会社
 株式会社 タイセイ総合研究所
 太平洋セメント販売株式会社
 高島屋スペースクリエイツ株式会社
 株式会社 匠コーポレーション
 ダイダン株式会社
 株式会社タジマ
 田島ルーフィング株式会社
 TOYOエクセラ株式会社
 東京島根県人会
 東京大学
 株式会社 東芝
 東洋熱工業株式会社
 戸田軽合金株式会社
 ナカ工業株式会社
 ナスエンジニアリング株式会社
 ナブコシステム株式会社
 内匠寮
 中村ブレイス株式会社
 日刊建設工業新聞社
 日鐵商事株式会社
 日東紡績株式会社
 株式会社日本アイデック
 日本大学 日高研究室
 日本テクロ株式会社
 日鉄住金株式会社
 株式会社 ニュースト
 ネクスト・エム
 野崎ビル
 阪和興業株式会社
 株式会社 日比谷アメニス
 美装工業株式会社
 不二サッシ株式会社
 平和合金株式会社
 ホーチキ株式会社
 ホーチキエンジニアリング株式会社
 北陸開発株式会社
 株式会社 マグ
 前田建設工業株式会社
 株式会社 松田平田設計
 光井純&ペリ クラーク
 ペリ アソシエーツ 建築設計事務所
 YKKAP株式会社
 ヤマギワ株式会社
 リリカラ株式会社